

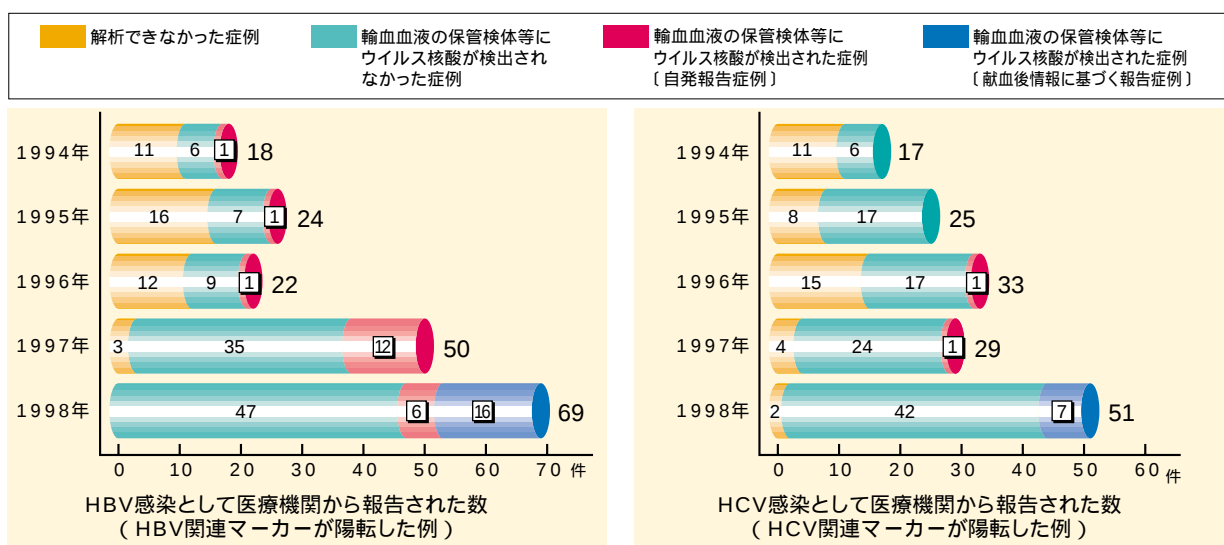
輸血情報

【輸血血液の保管検体にウイルス核酸が検出された症例 - 1998年 - 】

輸血によるウイルス感染の疑いとして1998年に赤十字血液センターに医療機関から報告された症例(自発報告)及び献血後情報への対応を行った症例の中で、輸血血液の保管検体にウイルス核酸が検出されたものは29例(HBV22例、HCV7例)でした。

以下にそれらの概要と1994年から1998年までの報告状況等を示します。

輸血によるウイルス感染の疑いとして血液センターに報告された症例及び献血後情報への対応症例の件数とその解析結果



輸血血液の保管検体にウイルス核酸が検出された症例が増加しました。その理由は、医療機関からの自発報告が若干増加したこと、1997年11月から分画製剤用原料血漿のミニプール核酸増幅検査で陽性となった血液と同一献血由来の血液を輸血された患者さんの追跡調査を行っていること、感染症マーカーが陽転した献血者の前回献血血液を輸血された患者さんの追跡調査を試行的に実施したことによります。それらは、現在のスクリーニング検査では排除できないウィンドウ期に献血された血液が主な原因と考えられました。

また、自発報告症例の大多数では輸血血液の保管検体に当該ウイルス核酸が検出されず、輸血による感染ではないことが推定されました。

患者情報等(1998年)【HCV】

症例 No.	原 疾 患	輸血用血液	年 齢	性 別	輸血前の 検査結果	輸血からHCV関連 マーカーが陽性と判明 するまでの期間(週)	ALT最高値		経 過		
							(IU/L)	輸血から の期間 (週)	HCV RNA	HCV 抗体	輸血から の期間 (週)
■ 献血後情報(分画製剤用原料血漿の500検体プール核酸増幅検査陽性情報)に基づき医療機関から報告された症例											
1	骨髄異形成症候群	RC-M・A・P	60 代	男	HCV 抗体 -	6.6 [HCV RNA +]	123	3.9	N.T	-	9.0
2	広範囲熱傷	FFP	30 代	男	HCV 抗体 -	12.4 [HCV RNA +]	245	46.4	-	+	60.9
3	右大腿骨頸部骨折	RC-M・A・P	60 代	男	HCV 抗体 -	5.0 [HCV RNA +]	308	31.0	-	+	31.0
■ 献血後情報(複数回献血者の関連マーカー陽転情報)に基づき医療機関から報告された症例											
4	出血性胃潰瘍	FFP	60 代	男	不明 ^{*1}	10.6[HCV RNA +]	81	39.7	+	+	39.7
5	胃癌	RC-M・A・P	50 代	男	HCV 抗体 -	13.7[HCV 抗体 +]	221	12.7	+	+	13.7
6	十二指腸出血	RC-M・A・P	60 代	男	HCV 抗体 -	12.6[HCV 抗体 +]	211	11.6	+	N.T	21.6
7	急性骨髄性白血病	PC	70 代	女	HCV RNA -	5.0[HCV RNA +]	107	4.9	+	-	14.0

保管検体にウイルス核酸が検出された輸血血液の種類

原疾患により死亡

^{*1} 輸血42日後の検査結果：HCV抗体 -

患者情報等(1998年)【HBV】

症 例 No.	原 疾 患	輸血用 血液	年 齢	性 別	輸血前の検査結果	輸血からHBV関連 マーカーが陽性と判明 するまでの期間(週)	ALT最高値		経 過				
							(IU/L)	輸血から の期間 (週)	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	輸血から の期間 (週)	
■ 自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から赤十字血液センターに報告されたもの													
1	常位胎盤早期剥離	FFP	30代	女	HBs 抗原 -, HBc 抗体 -	14.6 [HBs 抗原 +]	5,500	13.4	-	-	+	52.4	
2	多発外傷	FFP	10代	女	HBV DNA -, HBc 抗体 -	7.6 [HBs 抗原 +]	830	11.1	+	+	-	10.1	
3	出血性胃潰瘍	RC-M・A・P	50代	男	不明 *2	23.6 [HBs 抗原 +]	679	23.6	+	+	-	25.6	
4	骨髓異形成症候群	PC	50代	男	HBs 抗原 -	29.3 [HBs 抗原 +]	657	29.3	+	+	-	66.7	
5	急性硬膜下血腫	WB	10代	女	HBs 抗原 -	26.9 [HBs 抗原 +]	83	1.9	+	+	+	33.0	
6	胃癌	RC-M・A・P	70代	男	HBs 抗原 -	3.3 [HBV DNA +]	62	9.4	+	+	N.T	9.4	
■ 献血後情報(分画製剤用原料血漿の500検体プール核酸増幅検査陽性情報)に基づき医療機関から報告された症例													
7	胃腫瘍、肝腫瘍、他	RC-M・A・P	60代	男	HBs 抗原 -, HBs 抗体 -	14.4 [HBs 抗原 +]	97	1.7	+	+	-	30.4	
8	心疾患	RC-M・A・P	10才未満	女	HBV DNA -	6.1 [HBs 抗原 +]	148	15.6	+	+	-	48.0	
9	赤芽球癆	RC-M・A・P	60代	女	不明 *3	11.4 [HBV DNA +]	963	8.0	N.T	+	-	55.0	
10	心室中隔欠損症	RC-M・A・P	10才未満	男	HBV DNA -	13.0 [HBV DNA +]	987	23.4	N.T	-	-	47.7	
11	交通外傷	RC-M・A・P	40代	男	不明 *4	10.0 [HBV DNA +]	92	1.1	-	-	+	30.7	
12	大動脈弁閉鎖不全	FFP	70代	男	不明 *5	5.9 [HBV DNA +]	40	0.9	-	-	-	33.3	
13	胃癌	RC-M・A・P	70代	女	HBs 抗原 -	6.1 [HBs 抗原 +]	377	15.6	N.T	-	+	45.6	
14	僧帽弁閉鎖不全症	RC-M・A・P	60代	男	HBV DNA -, HBc 抗体 -	11.3 [HBs 抗原 +]	18	11.3	+	+	-	13.3	
15	胃癌	RC-M・A・P	70代	女	HBV DNA -, HBc 抗体 -	11.9 [HBs 抗原 +]	26	1.9	+	+	-	11.9	
16	胃癌	RC-M・A・P	70代	男	HBs 抗原 -	18.4 [HBs 抗原 +]	937	18.4	-	-	-	53.3	
17	胃癌	RC-M・A・P	80代	男	HBs 抗原 -	13.3 [HBV DNA +]	187	27.3	-	-	-	27.3	
■ 献血後情報(複数回献血者の関連マーカー陽転情報)に基づき医療機関から報告された症例													
18	急性前骨髄性白血病	PC	70代	女	HBs 抗原 -	18.7 [HBs 抗原 +]	192	5.7	+	+	-	18.7	
19	火傷	FFP	40代	男	不明 *6	5.4 [HBV DNA +]	171	3.7	N.T	+	-	10.0	
20	骨髓異形成症候群	RC-M・A・P	40代	女	HBV DNA -, HBs 抗体 -	7.7 [HBV DNA +]	3,454	22.3	-	-	+	41.3	
21	骨髓腫	PC	60代	女	HBs 抗原 -	6.9 [HBV DNA +]	820	9.9	+	-	-	10.9	
22	悪性リンパ腫	PC	80代	女	HBs 抗原 -	9.1 [HBs 抗原 +]	34	8.7	+	+	-	11.1	

保管検体にウイルス核酸が検出された輸血血液の種類

原疾患により死亡

*2 輸血4日後の検査結果：HBs 抗原 -

*3 輸血56日後の検査結果：HBs 抗原 -

*4 輸血1日後の検査結果：HBV DNA -, HBc 抗体 -

*5 輸血41日後の検査結果：HBs 抗原 -, HBc 抗体 -

*6 輸血44日後の検査結果：HBs 抗原 -, HBc 抗体 -

日本赤十字社では、ウインドウ期等に献血された血液による感染をさらに低減するために、現在実施している血漿分画製剤用原料血漿に加えて輸血用血液についても核酸増幅検査の準備を進めています。

■ 参考 【輸血後肝炎の診断基準 - 抜粋(一部省略) - 】*

- 輸血後2週以降6か月の間に、ALTが100IU/L以上の肝機能異常が発生し、継続的に2週以上に及んだ場合、輸血後肝炎と診断する。
- 上記1.の症例の中で、輸血後に、HBs抗原が陽転するかHBV-DNAが陽性化したものを輸血後B型肝炎と診断し、同じくHCV抗体が持続陽転するかHCV-RNAが陽性化したものを輸血後C型肝炎と診断する。

*1996年3月 厚生省肝炎研究連絡協議会(輸血後感染症に関する研究班)

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-31
TEL:03-5485-6607 FAX:03-5485-7620

■ お問い合わせ